

医政メモ



P4P

**Q：P4Pとは何**

**A：**pay for performanceの通称として、広まった略号です。通常はインターネットのkey word連動型広告の総称です。Yahooの-sponsoredサーチや、Googleのアドワーズ広告のように、広告主があらかじめ広告を打ちたいkey wordを入力しておき、広告主の間で入札を行い、価格の高かった順に、検索結果のページに広告が反映される仕組みです。

**Q：医療と何の関係があるの**

**A：**2000年ごろからアメリカで始まった、医療機関に対し、保険会社、企業など支払い側が評価しそれに応じて診療報酬の上乗せや、減額を行うシステムをP4Pと呼んでいます。これも同様に、成果に応じて、報酬を与える仕組みなので、医療界のpay for performance、P4Pと呼ばれるようになりました。民間保険会社が行っていたHMO (health maintenance organization) が20世紀末にはうまく機能しなくなり、医療受診者、支払い側双方から不満が出てきたため考えられたシステムです。HMOの実際については、最近ならマイケル・ムーア監督の映画「シッコ」、少し前ならジャック・ニコルソン主演の「恋愛小説家」をご覧ください。わかんと思いますが、被保険者が怪我をしても、喘息の発作が起きても、意識不明になっても、事前に保険会社の了解を得た上で、了解されず拒否される場合もありますが、指定の病院に行かないと保険金がおりなくなります。そのため保険がおらなかった患者さんは、生活が困窮し自己破産に追い込まれる人が多数出ています。実際、アメリカの自己破産の半分は医療費絡みだそうです。

**Q：P4Pの仕組みは**

**A：**医療機関に対し、その活動と治療内容によって報奨金を与えるシステムで、報奨金を出すのは、保険契約企業、保険会社が主体です。電子カルテを導入している医療機関では、これによる付加報奨金がつくため、アメリカでは急速に電子カルテが普及しているようです。アメリカのIBMの研究員が日本の実態調査のおり、日本では、低医療費と、電子カルテを導入してもそれに対するインセンティブがないため、電子カルテの普及はないだろうと報告しています。この医療機関のIT化以外に評価項目として、患者満足度、臨床指標、これは支払い側が決めたガイドライン準拠率や、死亡率、合併症の発生頻度などがあります。P4Pの利点として、患者さんは質の高いと評価された医療機関を受診できること、企業、保険会社など支払い側の利点は、支出を抑制できることが挙げられます。一方で欠点としては質を評価する項目、ガイドラインがそれぞれの機関で行われていて統一されていないこと、また評価するのは支払い側で、ガイドラインの設定にも、患者側でなく支払い側が関与していることがあげられます。P4Pを受け入れている医療機関では、死亡率、合併症の改善でボーナスをもらうため、またHMOと同様の自体が起こりえると思います。P4Pのシステムは医療費の高騰に苦しむメディケア（アメリカの身障者、65歳以上を対象とした公的保険）メディケイド（失業者、貧困者を対象とした公的保険、メディケア、メディケイドでアメリカの人口の26%をカバーしています）でも導入する試みがされています。HMOに参加している臨床の現場では、P4Pを受け入れている医療機関にゲートキーパー役を担わせて、転

送した先の医療機関も含めてトータルで医療費が節約できた医療機関にボーナスを、できなかった医療機関には、支払いの減額を行っています。日本でも、P4Pの研究会に、厚労省の官僚も出席しており民間企業と組んで調査研究しています。まず狙っているのは、DPC（diagnosis procedure combination、診断群分類包括評価）で疾患ごとの医療費のデータの蓄積ができた厚労省が、DPCが廃止された後P4Pを導入する可能性があります。

す。DPCは近年中に廃止される見込みです。また後期高齢者医療制度でも、総合科がらみで利用される可能性があります。医療関係者が、関与せず決まるこのシステムが、支払い側にはよくても、患者さんのためになるとは思えません。実際アメリカでも、P4Pによって、疾病の改善率は向上しなかったという報告もあります。今後も注視していく必要があります。

（政策部担当理事 宮崎 誠一）